

はじめに 「訪問カレッジ」のご案内

「訪問カレッジ」とは、学校卒業後、学習支援員がご家庭に訪問して学びを提供する事業。対象は、重度・重複障害者です。全国で20団体になりました。

【経過】

平成9年 「医療と教育研究会」の立ち上げ

平成19年 「地域ケアさぽーと研究所」NPO法人化

平成24年 「訪問カレッジ@希林館」の活動開始

平成29年 「重度障害者 生涯学習ネットワーク」設立

【理念】

- ❖ 打ち合わせ会では、「いのちが危ない状況だったが、退院してからは元気」、「骨盤骨折で入院したが、体位変換も困難・・・」、「行くたびにできることが限られてくる」、「冬になるので、何回授業ができるか・・・」等々いのちに向き合っている姿が報告されています。
- ❖ 小さないいのちの灯を、懸命に点しながら、学びに向き合っている「訪問カレッジ」の学生たち。そして、学生のいのちを輝かせているのは、学習支援員の方々です。

表彰状

ありのまま自立支援大賞

重度障害者・生涯学習ネットワーク殿

あなたがたは「生きることは学ぶこと 学ぶことは生きる
喜び生涯にわたって学ぶ続ける喜びを」を設立趣旨に掲げ
医療的ケアなどの多様な支援を必要とする方の学び続け
たい希望に耳を傾け訪問という形で学びの機会を提供して
くれました元先生方を中心として熱心な思いと諦めない
気持ちでひとりひとりに寄り添い生徒たちの希望ニーズに
応えながら工夫と発想をこらし教育の場を提供して
おられます難病や重い障害を持っていても好きな勉強を
続けられることは生きる励みとなりそして夢や希望に
つながり誇りをもって人生を歩むことにつながっている
ことでしょうどんなに重い障害があっても教育を保障し
誰もが当たり前に教育を受けることができる社会の実現に
向け今後の更なる発展を祈念しつつここに第二十五回
ありのまま自立大賞授賞式のよき日にあたりありのまま
自立支援大賞を授与し栄誉を称えます

令和七年七月二十三日

社会福祉法人ありのまま舎

理事長 白江

浩





【明日に向かって、人生の履歴を創る】
～生涯にわたる学びの機会と場「訪問カレッジ」を～

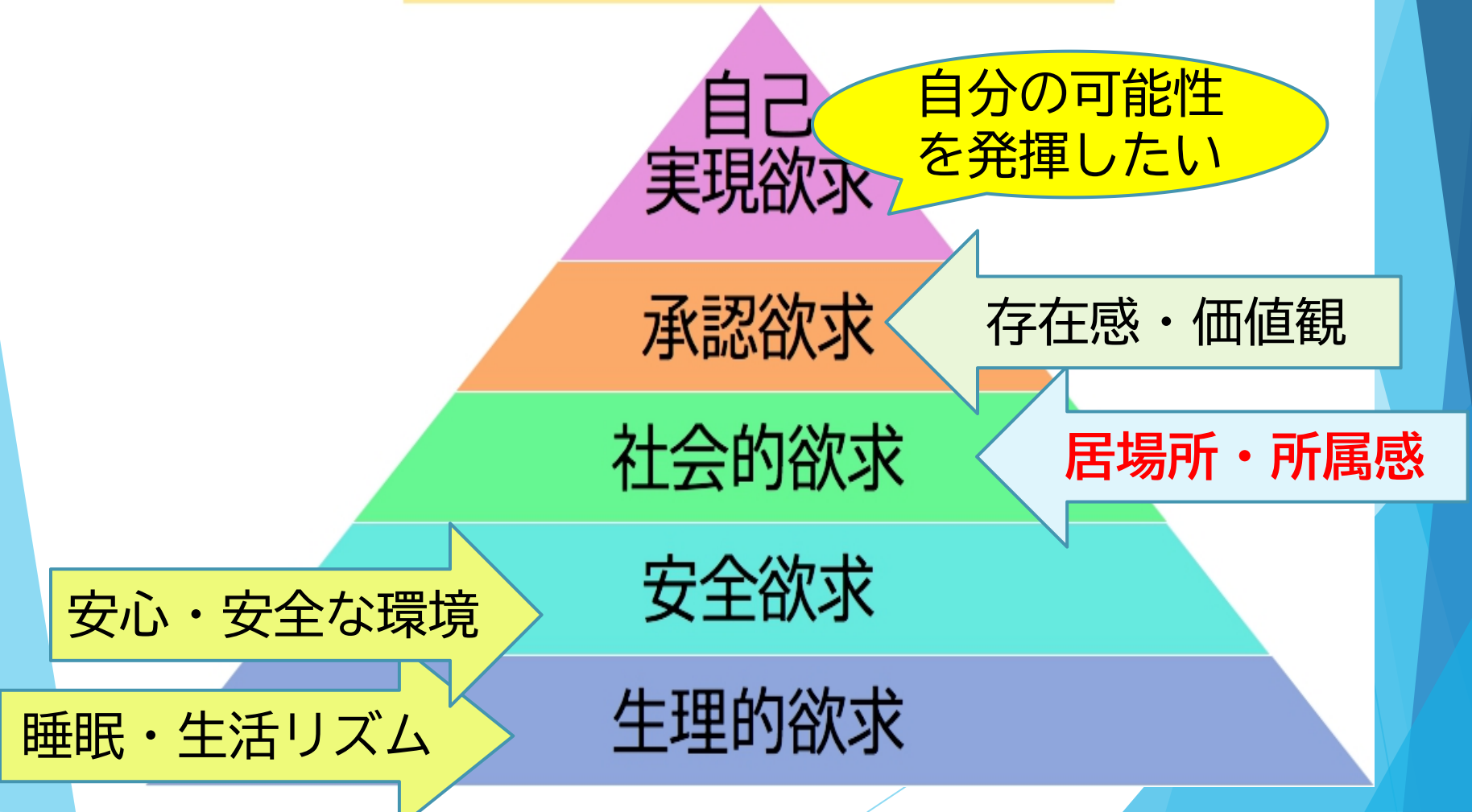
生きることは、学ぶこと。
学ぶことは、生きる喜び。
生涯にわたって、学び続ける喜びを！
いつでも どこでも だれにでも いくつになっても
夢と生命を育む生涯学習を！

目指す社会像として、障害者が、健康で生きがいのある生活を追求することができ、自らの個性や得意分野を生かして参加できる社会であること

「障害者の生涯学習の推進方策について」（31.3） 「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議報告」

生命と健康を守り、個性を尊重し、自己実現を図る
キーワードは、ライフステージに応じて・・・

マズローの欲求5段階説



生涯学習とは・・・

①障害者権利条約の批准（2014年・平成26年）

第24条 教育 締結国は、教育についての障害者の権利を認める。締結国は、この権利を差別無しに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障害者を包容するあらゆる段階の教育制度及び生涯学習を確保する。

⇒「国として」障害者の生涯学習に取り組む
必要性が明示

②学習活動は、あらゆる教育活動の中心に位置づけられ、人々をなりゆきまかせの客体から、自らの歴史を創る主体に変えていくものである。

ユネスコ 「学習権宣言」 1985年

「障害者の生涯学習の推進方策について～誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して：31年3月」

＊学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者
会議報告 総合教育政策局へ改編 平30.10月

- 目指す社会像として、障害者が、健康で生きがいのある生活を追求することができ、自らの個性や得意分野を生かして参加できる社会であること
- 重度・重複障害者にとっての学習は、人や社会とのつながりを持つ上でも大変重要なものである。本人や保護者、支援者には、学校に就学している間にできていた学習や周りの人との交流を卒業後も継続したいとの希望が極めて強いことも念頭に置いて、学びの場づくりを進める必要がある。この他、本有識者会議においては、在宅での学習に係る意見もあったことから、文部科学省においては、関係省庁との連携も図りながら、在宅での生涯学習の機会を設ける取組について、障害者にとっても学びやすい遠隔学習の在り方も含めて、優れた実践事例から研究を進める必要がある。

生涯学習に関する願い 「守る会」の「社会保障審議会」に おける団体ヒヤリングの意見

- ⌋ 重症者のライフステージにあっては、特別支援学校で学んだことを継続するため、卒業後は、障害福祉サービスでそのバトンを受け取るための支援設計図を障害者総合支援法に明記してほしい。
- ⌋ 具現化するにあっては、「療養介護」「生活介護」等の個別支援給付制度の「その他の日常生活上の支援」などに生涯学習相応の支援を明記し、特別支援学校教員OB等の雇用のための加算報酬を設けていただきたい。
- ⌋ また、生活介護には「居宅訪問型児童発達支援」同様の事業として、「居宅訪問型生活介護」事業の創設をお願いしたい。

生涯学習を視点とした訪問・福祉サービス

◆私は一昨年肺炎になり、気管切開をしました。それで声を失いました。絶望のどん底に落ちてしまいました。その時、元担任の先生から声をかけてもらって、訪問カレッジに入りました。

◆家庭でできる余暇の過ごし方を教えます。また、身体のケアも同時に行ってくれます。さだ まさしが大好きな私の為にギターを弾いて歌って下さり、その時間はウキウキします。

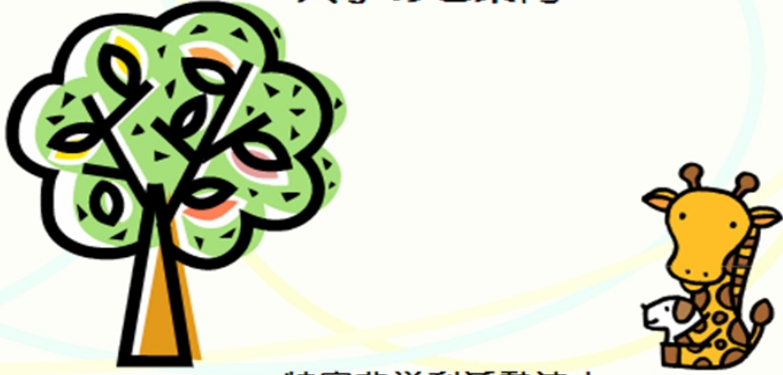
◆iPadを使っのゲームや情報など色々勉強させてもらっています。普段は身体がきつくて辛いのですが、訪問の時間は。楽しくて、痛みを忘れて夢中になってしまいます。私の命が続く限り入ってみたいです。

障がいや病気のために通所施設等の毎日の利用が難しい18歳以上の人たちの生涯学習を支援する。

訪問・福祉サービス事業 あっときりんかん

訪問カレッジ@希林館

入学のご案内



特定非営利活動法人
地域ケアさぽーと研究所

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

	在籍者			医療的ケアの状況								
				呼吸障害				摂食・嚥下障害			その他	
	男性	女性	合計	気管切開	人工呼吸器	酸素療法	吸引	経鼻胃管	胃瘻腸瘻	IVH	人工肛門	その他
平成24年度	3	3	6	3	3	3	5	5	1	1	1	0
平成25年度	5	4	9	6	6	5	9	6	3	1	1	0
平成26年度	6	4	10	7	7	5	10	7	5	2	2	透析1
平成27年度	6	4	10	8	7	5	10	4	3	2	3	透析1
平成28年度	6	4	10	8	7	5	9	4	3	1	2	0
平成29年度	6	4	10	8	7	5	9	4	4	1	2	0
平成30年度	9	6	15	10	9	7	11	7	4	1	2	0
令和元年度	11	8	19	13	12	9	15	9	6	1	2	0
令和2年度	12	9	21	14	13	10	16	7	0	1	0	0
令和3年度	12	9	21	14	13	10	16	10	7	0	1	0
令和4年度	10	9	19	13	12	10	15	9	8	0	1	0
令和5年度	9	10	19	13	11	10	15	8	9	0	1	0
令和6年度	10	10	20	13	11	10	15	7	10	0	1	自傷1
令和7年度	11	10	21	13	11	10	16	7	12	0	1	自傷2

「訪問カレッジ@希林館」の現状 令和7年4月現在

- I 7年度 21名
気管切開：13名 人工呼吸器：11名 吸引：16名
酸素療法：10名 経鼻経管栄養：7名 胃ろう：12名
人工肛門：1名
- 2 訪問先 家庭：13名 病院：2名 入所施設：6名
- 3 学習内容
 - ①体の取り組み（マッサージ、体操、）
 - ②音楽・音楽鑑賞、VOCALやiPadを使った音楽
 - ③意思伝達装置（レッツチャット・マイトビーなど）の活用、
 - ④読み聞かせ ⑤美術制作 ⑥俳句づくり ⑦英語
 - ⑧創作（物づくり）
- 4 週1回 前期・後期（8月と3月は休業月）
授業料 年1万円
- 5 学習支援員（元特別支援学校教員）15名
2か月に1回会合
1回につき3000円の支払い（交通費無し）

学習内容&プログラム

①教科型プログラム

②自立活動型プログラム

14:00～身体への取り組み

(静的弛緩誘導法)

14:20～音楽 (年に数回)

14:40～学習 (約 1 時間)

①伝の心の操作と創作

②文章の書き方や作品鑑賞

③情報 最近のニュース

新聞の投書、川柳、社説

**④こころとからだ (精神保健
関係のコラム)**

15:40～身体への取り組み

(静的弛緩誘導法)

* はじまりの会

* 季節の話

* はじまりの歌

* 身体への取り組み

* うつぶせになって、
スイッチ・iPad・絵

* 五感を生かした活動
・ おわりの会



0さんのシラバス

	数・形のマッチング・言葉等を主題とした学習等	操作等を通して感覚を楽しみ、手や道具の操作性を意識した学習
6月	『新幹線を運転しよう』	『スチレンボードの版画』
7月	iPadのスイッチ操作をして新幹線を動かす。日本の風景や地理にも関心を向けましょう。	色が重なる美しさに気付いたり、刷り上がった版画の意外性に興味を持ちましょう。
8月	『的あて 世界の旅』ゲームを通して、数・形・色の意識。形の比較・数の大小・マッチングも挑戦しましょう。	『自分だけのTシャツプリント』
9月		シャボン玉アートを使って、Tシャツプリントをしてみよう。
10月	『物語の世界へ』双六ゲームを通してながら、物語の世界へいこう。	『幻想的な海の世界へようこそ』
11月	物語に興味を持ち、見通しを持って話の内容を楽しもう。	光る材料を使って海の中を再現してみよう。
12月		
1月	『紙相撲で数の勉強』	『日本の文化に触れよう』
2月	相撲の対戦を通して勝負を楽しみます。勝ち星の数の比較をして、多い少ないも学習しましょう。	お正月遊び・書き初め・墨絵・節分などこの時期の季節を感じなら、日本文化に触れましょう。

訪問学習における学習の類型化 (案)

訪問型生涯学習の学びは、一人一人に応じて、多様である。継続的・発展的に学びを重ねるために、下記のように類型化を試行している。

- ①人文科学分野
- ②社会科学分野
- ③自然科学分野
- ④家政学分野
- ⑤文化・芸術分野
- ⑥からだ・スポーツ分野(静的弛緩誘導法等)
- ⑦言語・コミュニケーション分野(ICTの活用・視線入力等)
- ⑧自立活動の継続に関する分野

スクーリングで取り上げたいこと

生涯学習ニーズ調査：学びたいこと・学ばせたいことから

今後設けたい講座 一覧	人数
①ミュージック・セラピー～音楽を楽しむ	54
②健康・体づくり～からだを緩め、緊張を解く	49
③アロマ・セラピー	45
④読書活動～読み聞かせ等を通して、本に親しむ	41
⑤スヌーズレン～感覚を磨く	38
⑥コミュニケーション支援機器(iPad等)を操作する	32
⑦ボウリング・ゲーム等	29
⑧スイーツづくり～ティータイムを楽しむ	27
⑨物づくり～絵画・紙粘土などの制作活動をする。	23
⑩地理・歴史～映像で世界を旅する～世界の文化・歴史に親しむ	23
⑪文学～創作活動～詩作・作曲・お話づくりにチャレンジする	20
⑫福祉～生活に関する身近な福祉を学び、生活に生かす	18

訪問カレッジの活動を通して分かったこと

- ①学校時代に身に付けたことを、ゆっくりと、自分のペースで、自分らしさ・その人らしさを育んでいる。
- ②何歳になっても、緩やかではあるが、成長・発達し続けている。
- ③授業が始まると、学校時代に蓄積した力を発揮し、顔が輝き、「学ぶことは生きる喜び」を体現している。
- ④一週間に一度の訪問であっても、その日を心待ちにし、生活リズムを整えている。
- ⑤筋緊張や拘縮を予防し、身体の出組が必要である。
- ⑥年間を通じて、体調の変化があり、生命と向き合い、その力を精一杯発揮できる「時」は、かけがえのない時間であり、生命を強めている。
- ⑦家族がともに学び、家族の相談にのるなど、家族支援の場になっている。

訪問カレッジの意義と役割

1 医療的ケアの必要な方の心豊かな人生への支援

- ①生命と夢を育み、生きる力を強める。
- ②日常生活の空間を、知的好奇心を促し、知的刺激のある学びの環境へ整え、生活の質を高める。
- ③家族以外の人とのつながりを広げる。
- ④**本人主体**の活動を創出する。
- ⑤**かけがえのない人生のかけがえのない「時」を、学びたいと学ぶ「時」とすること**

2 家族の方々への支援

- ①家族からの側面的・主体的・積極的支援がある。
- ②家族の孤立化を防ぐ～話し相手・心理的な支え。
- ③喜びを分かち合い、共感によって関係性を築ける。

3 地域社会への発信

- ①生命を尊重し、**生命の価値**を伝える。

学習支援員は、支え，支えられる関係づくり

×学習支援員の方は、「障害のある方は、発語はなくても『ことばの世界』に生きていると思います。周りの人からの言葉かけをよく聞いています。それは生活年齢からくる言葉の積み重ねと考え、**生活年齢を大事にしています**」と話し、「ご家庭が協力的で、家族のあり方などを学ぶことも多く、やりがいにつながっています。『私自身の生涯学習』でもある」と結んでいます。

×「訪問カレッジ」の学びには、可能性へのチャレンジがあり、感動の瞬間に立ち会える時もあります。学びによって学生を「支えている」のですが、「支えられている」と、**双方向の関係性**が成立しています。このことは、人を動かす「支え合い」のサイクルです。

「はげみ393号」

求められていることは～一人一人にあった豊かな活動

- 創作の時間は、リラックスして自由に動く手を使い、たくさん作品が仕上がりました。工程では、材料の説明や素材の感触や匂いなども楽しみながら作業しています。温かい、冷たい、重い、ふわふわ、ねばねばなど初めての感触もたくさんありました。作品が一つ仕上がるたび、満足そうな笑顔と、次への期待が表情でわかります。また、友だちや訪問看護師、ヘルパーさんに作品をほめられてと、とても嬉しそうにしています。学習時の集中力とエネルギーには驚いています。
- 本の読み聞かせでは、言葉の面白さや新しい「学び」もたくさんあり、授業のエンディングとしてゆったりとした時間を過ごし、創作の時間とはまた違った表情を見せてくれます。
- 今、息子にとって訪問カレッジは生活の一部となり、元気に授業を受けることが目標になりました。そして、新しいことへの興味、チャレンジは「生きる力」となっています。
(保護者の感想から)

「訪問カレッジ」のご家族の手紙から 2020.8.30

- 以前少しお話ししましたが、通所を止められた揚げ句に、**一方的にやめさせられました。**通所するために車に移乗することが精神的にも肉体的にも大きなストレスになり、通所先に着いてから広いフロアをストレッチャーで移動することが気管から大出血を起こす大きなリスクになるというのが理由です。
- 日々コロナの感染状況が悪化していて、7月1か月で感染者が100人以上増えています。恐ろしさに家から出ることがほとんどない毎日です。
※近所はお年寄りも多く、**コロナ警察**のような雰囲気もあるので、しばらく訪問カレッジはお休みしたいとの電話あり。

カレッジでの体験は・・・ 保護者の声

- × 今までは、娘の気持ちは家族にしか分からないと思っていたのですが、諦めずに聞いて下さる先生方に答えている姿があり、感動しました。体調が不安なため、あまり外出していなかったのですが、トーキングエイドで、しっかりと**切実に外出したい**と伝えてきたこと、思い切って外出することができました。
- × また、お化粧や着替えもしていなかったのですが、本当はしたかったのだと伝えてくれ、驚きました。**21歳の女性**の生活をさせようと反省しました。帝京大学の学生さんが来て下さったときも、「友達♡友達♡」とずっとハイテンションでした。姉妹だけではなく同世代の人たちとの交流も必要なのだと感じました。
(卒業生 2018年に旅立つ)

豊かな地域生活のために 付けたい力

(1) 周囲の大人が、児童生徒の力を限定しない。

うちの子は、これが苦手」 (事柄の限定) (場所の限定)

〇〇先生でなければ、持っている力を出せない (人の限定)

「障害が重いから、どうせわからないだろう」 能力の限定)

● レッジョ・エミリア市の幼児教育に学ぶ

「子どもたちの百のことば」 ローリス・マラグッツィー

子どもは百のものでつくられている。子どもは、百の言葉を
百の手を 百の考えを 遊んだり話したりする 百の考えを
愛することの驚きを いつも百通りに聞き分ける 百のものを
歌ったり理解する 百の楽しみを 発見する 百の世界を
発明する 百の世界を 夢見る 百の世界をもっている 子
どもは百の言葉をもっている けれどもその九九は奪われて
いる。学校の文化は、頭と身体を分けている。(略)

(2) 多様な体験を設定し、感性が豊かになるような学びを大切にする。

「訪問カレッジ」の目指していることと手応え

- 「『訪問カレッジ』の取組は、《運動》！」そして、「新たなシステムを創るために、5年後、10年後を見据えてのチャレンジ」です。
- 毎年、亡くなる方がいます。「ターミナル」の方もいました。時間は短いのですが、学習支援員の方が、本人に寄り添い、信頼されて、無くてはならない関係性を築いていたことに、訪問カレッジの意義があると思っています。支援とは「存在を支える」ことです。
- 「訪問カレッジ」の手応えは、「人間は誰でも、無限の可能性を持っているものであり、自分をより豊かに成長させ、拡大し、変革していきたいという願いをもっているものである。また、誰でもそういう力を持っているものである」（斎藤喜博）ということの重要性を実感し、確信したことにあります。何歳になっても、緩やかですが、発達し続けています。その機会と場が必要です。
- だからこそその《運動》です。

「重度障害者・生涯学習ネットワーク」 20団体

1 ネットワークの目的

- (1) 生涯学習の理解・啓発・情報交換・システムの開発・制度化
- (2) 生涯学習に関わる人材の育成及び確保

2 参加団体と代表者 (4団体で発足)

- ①「訪問カレッジ@希林館」 NPO法人地域ケアさぽーと研究所
- ②「訪問大学 おおきなき」 おおきなき
- ③「ひまわりHome College」 NPO法人ひまわりProject Team
- ④「いるか」 NPO法人 かすみ草
- ⑤「NPO法人あいけあ」 NPO法人あいけあ
- ⑥「日野市障害者訪問学級」 日野市障害者問題を考える会
- ⑦「訪問カレッジ静岡」 静岡県障害者就労研究会
- ⑧「訪問カレッジEnjoyかながわ」 NPO法人フュージョンかながわ
- ⑨在宅訪問学習支援事業「学びのサポート」
- ⑩「みんなの大学校」一般社団法人みんなの大学校
- ⑪「訪問カレッジ オープンカレッジ@愛媛大学 愛媛大学

訪問カレッジ「学びの実り 文化祭」

10月25日 オリンピックセンター

主催・重度障害者／生涯学習ネットワーク

○カレッジ生の実践発表

- 1 行政説明 文部科学省 厚生労働省
- 2 基調講演「障害のある方の生涯学習のこれから」―広める深めるために～
- 3 シンポジウム
 - ①社会貢献活動「ゆめ水族館」とこれからの取組み
 - ②「社会における学びとは～ミュージアムへのアクセシビリティを通して考える」
- 3 誰もが学ぶための仕組みづくりと工夫

今、私たちが訴えたいこと

- × いのちと向き合い、いのちを輝かせ、懸命に学ぶ「訪問力レッジ（総称）」の学生の姿には、人を動かす力があります。小さないのちを灯し、時を刻んで、糸を一本一本紡ぎながら、「夢」を織り上げています。そこには、感動があります。ネットワークのメンバーは、「もっと学びたい！」「学びは楽しい！」との声に動かされて、今日まで歩んできました。
- × 、直面していることは、運営面での諸課題です。各団体によって事情は異なりますが、安定した運営資金と人材の確保が困難なことです。生涯学習のニーズは、年々高くなっていますので、その期待に応えて、医療的ケアの必要な方々の「訪問型の学びの場」を拡充するには、ステップアップが必要であると切実に感じています。
- × その方途は、何らかの形で法の制度の確立です。小さな力の集積が。大きな力になり、社会を動かす日の招来を心待ちにしています。

おわりに「訪問カレッジ」は福祉と教育の谷間
生涯学習の種おまきをしてきた→芽が出て、双葉となり
若葉→大樹（制度）まで、頑張る！！！！

- 「私たちは、これまで医療的ケアの必要な方々の
生涯学習の種まきをし、その芽が育ち、やっと双
葉になっているところです。
- 報告書は、やがては青葉が繁り、大きな樹になる
ことを期待している関係者にとっては、基盤とな
る立派な植木鉢のプレゼントをもらった！」です
- これまで、方向性も指針も何もない状況で、歩ん
できましたが、**時を刻んでいけば、着地点が見え
てくると、感じました。「歴史の道は、言い出し
て5年、実現までには 10年です」**